科目名	アメリカ文化論特講	担当者	アキクサ　シュンイチロウ 秋草　俊一郎	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	亡命作家ウラジーミル・ナボコフの英語作品の邦訳（『プニン』,『ロリータ』）を読むことで，まず小説・文学作品の技巧について理解をすすめてほしい。また，二次的な目的として，そこに表出されているアウトサイダーの目から見た「アメリカ」について検討する。異なる文化のなかで生活することはどういうことなのか，ナボコフ作品を読むと，外国文学を読むことの意味がより一層前景化されるだろう。
到達目標	小説を味読するために必要な技術・概念を習得する。具体的には語り（語り手）・文学的引喩（アリュージョン）などである。 また，小説を読むうえで，文化・歴史などコンテクストについて意識的になることの重要性を学ぶ。
学修方法	教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。リポート作成にあたっては，草稿から最終稿に至るまで，履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。リポート提出システム manaba を用いたうえで，面接ゼミ・サイバー・ゼミのいずれかに参加し，課題リポートについての報告をおこなうことが望ましい。
スケジュール	前期：７月中旬までに教材１のリポート課題(1)最終稿を提出。 リポート課題(2)については９月中旬までに最終稿を提出。 後期： 11 月中旬までに教材２のリポート課題(1)最終稿を提出。 リポート課題(2)については 2017 年１月の課題提出締切日までに最終稿を提出。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	教材を精読理解し，課題に応える内容となっているか，また，学術論文の体裁が整っているか評価する。
	平常評価	20%	メール，manaba，ゼミ等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。

履修者への要望	リポート作成は修士論文執筆のための重要な準備である。教材を熟読し，可能な範囲で関係資料を参考にして課題にとりくむこと。引用については盗用にならないよう十分注意してほしい。また，ゼミ（面接・サイバー）への出席。発表，manaba のコミュニティや掲示板でのディスカッションなど，積極的な参加を求める。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　著者名：ウラジーミル・ナボコフ 教材名：　教材名：『プニン』（文遊社，2012 年）ISBN: 978-4892570742　2,800 円+税
	1957 年に出版された『プニン』は，ナボコフの英語作品としては第四作にあたる。雑誌に断続的に掲載された連作短編の形式をとっており，ユーモアもあって読みやすい作品になっている。主人公の亡命ロシア人大学教授ティモフェイ・プニンの日常を描いたキャンパス・ノベルである。
参考図書	若島正『乱視読者の新冒険』（研究社） 若島正『乱視読者の帰還』（みすず書房）
履修上のポイント	原作が書かれた時代（1957 年）について考えてみる，ほかの作品との比較してみる（たとえばほかのキャンパス・ノベルであるディヴィッド・ロッジ『交換教授』とくらべてみるなど），作者の伝記的事実とどこまで符合するのか調べてみるなど（ウラジーミル・ナボコフ『記憶よ，語れ　自伝再訪』作品社），多角的な観点から作品にアプローチしてみてほしい。
リポート課題 1	『プニン』において，「主人公プニンと語り手の関係」について，分析して自分なりに解説しなさい（3000 字以上，上限なし）。
リポート課題 2	『プニン』を読み，作品について自由に論じなさい（4,000 字以上，上限なし）。 **留意点**：①参考文献・先行研究を最低二つ以上あげ，自説を説得的なものにすること，②『プニン』からの引用（最低三行以上）を適切な方法でおこなうこと。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　著者名：ウラジーミル・ナボコフ 教材名：　教材名：『ロリータ』（新潮文庫，2006 年）ISBN: 978-4102105023　890 円+税
	「ロリータ・コンプレックス」という言葉によって一度は聞いたことがあるだろうが，その小説を実際に読んだものがどれくらいいるのだろうか。扇情的なイメージとは裏腹に，ハンバート・ハンバートという衒学的な語り手の一人称による語りは，『プニン』よりはるかに読みづらい。また，ジョン・レイ・ジュニアなる架空の人物による序文や，ナボコフ自身によるあとがきの意味についても考えてもらいたい。
参考図書	若島正『ロリータ，ロリータ，ロリータ』（作品社） スタンリー・キューブリック監督『ロリータ』（1962 年）など
履修上のポイント	外国文学だが，日本語でかなりの先行研究が参照できる作品であるので，参考文献として挙げた以外にも自発的に先行研究を調査してみること。また，テクスト分析以外にも，文化史・風俗面に着目したり，映像化作品との比較など，多様なアプローチで作品理解に努めてほしい。
リポート課題 1	『ロリータ』を読み，その形式・構成・語りにおける特徴について解説しなさい（3,000 字以上，上限なし）。 **留意点**：単純にあらすじを述べるだけでなく，小説として特異な点に着目し，解説すること。
リポート課題 2	『ロリータ』を読み，作品について自由に論じなさい（4,000 字以上，上限なし）。 **留意点**：①参考文献・先行研究を最低二つ以上あげ，自説を説得的なものにすること，②『ロリータ』からの引用（最低三行以上）を適切な方法でおこなうこと。

科目名	アメリカ文化論特講	担当者	アキクサ　シュンイチロウ 秋草　俊一郎	期間	通年	単位数	4

【科目概要】

目　　的	亡命作家ウラジーミル・ナボコフの英語作品の邦訳（『プニン』,『ロリータ』）を読むことで，まず小説・文学作品の技巧について理解をすすめてほしい。また，二次的な目的として，そこに表出されているアウトサイダーの目から見た「アメリカ」について検討する。異なる文化のなかで生活することはどういうことなのか，ナボコフ作品を読むと，外国文学を読むことの意味がより一層前景化されるだろう。
到達目標	小説を味読するために必要な技術・概念を習得する。具体的には語り（語り手）・文学的引喩（アリュージョン）などである。 また，小説を読むうえで，文化・歴史などコンテクストについて意識的になることの重要性を学ぶ。
学修方法	教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。リポート作成にあたっては，草稿から最終稿に至るまで，履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。リポート提出システム manaba を用いたうえで，面接ゼミ・サイバー・ゼミのいずれかに参加し，課題リポートについての報告をおこなうことが望ましい。
スケジュール	前期：７月中旬までに教材１のリポート課題(1)最終稿を提出。 リポート課題(2)については９月中旬までに最終稿を提出。 後期： 11 月中旬までに教材２のリポート課題(1)最終稿を提出。 リポート課題(2)については 2017 年１月の課題提出締切日までに最終稿を提出。

成績評価	種　別	割合	評価基準
	リポート	80%	教材を精読理解し，課題に応える内容となっているか，また，学術論文の体裁が整っているか評価する。
	平常評価	20%	メール，manaba，ゼミ等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。

履修者への要望	リポート作成は修士論文執筆のための重要な準備である。教材を熟読し，可能な範囲で関係資料を参考にして課題にとりくむこと。引用については盗用にならないよう十分注意してほしい。また，ゼミ（面接・サイバー）への出席。発表，manaba のコミュニティや掲示板でのディスカッションなど，積極的な参加を求める。

【リポート課題】

基　本　教　材　1	
教材の概要	著者名：　著者名：ウラジーミル・ナボコフ 教材名：　教材名：『プニン』（文遊社，2012 年）ISBN: 978-4892570742　2,800 円+税
	1957 年に出版された『プニン』は，ナボコフの英語作品としては第四作にあたる。雑誌に断続的に掲載された連作短編の形式をとっており，ユーモアもあって読みやすい作品になっている。主人公の亡命ロシア人大学教授ティモフェイ・プニンの日常を描いたキャンパス・ノベルである。
参考図書	若島正『乱視読者の新冒険』（研究社） 若島正『乱視読者の帰還』（みすず書房）
履修上のポイント	原作が書かれた時代（1957 年）について考えてみる，ほかの作品との比較してみる（たとえばほかのキャンパス・ノベルであるディヴィッド・ロッジ『交換教授』とくらべてみるなど），作者の伝記的事実とどこまで符合するのか調べてみるなど（ウラジーミル・ナボコフ『記憶よ，語れ　自伝再訪』作品社），多角的な観点から作品にアプローチしてみてほしい。
リポート課題 1	『プニン』において，「主人公プニンと語り手の関係」について，分析して自分なりに解説しなさい（3000 字以上，上限なし）。
リポート課題 2	『プニン』を読み，作品について自由に論じなさい（4,000 字以上，上限なし）。 **留意点**：①参考文献・先行研究を最低二つ以上あげ，自説を説得的なものにすること，②『プニン』からの引用（最低三行以上）を適切な方法でおこなうこと。

基　本　教　材　2	
教材の概要	著者名：　著者名：ウラジーミル・ナボコフ 教材名：　教材名：『ロリータ』（新潮文庫，2006 年）ISBN: 978-4102105023　890 円+税
	「ロリータ・コンプレックス」という言葉によって一度は聞いたことがあるだろうが，その小説を実際に読んだものがどれくらいいるのだろうか。扇情的なイメージとは裏腹に，ハンバート・ハンバートという衒学的な語り手の一人称による語りは，『プニン』よりはるかに読みづらい。また，ジョン・レイ・ジュニアなる架空の人物による序文や，ナボコフ自身によるあとがきの意味についても考えてもらいたい。
参考図書	若島正『ロリータ，ロリータ，ロリータ』（作品社） スタンリー・キューブリック監督『ロリータ』（1962 年）など
履修上のポイント	外国文学だが，日本語でかなりの先行研究が参照できる作品であるので，参考文献として挙げた以外にも自発的に先行研究を調査してみること。また，テクスト分析以外にも，文化史・風俗面に着目したり，映像化作品との比較など，多様なアプローチで作品理解に努めてほしい。
リポート課題 1	『ロリータ』を読み，その形式・構成・語りにおける特徴について解説しなさい（3,000 字以上，上限なし）。 **留意点**：単純にあらすじを述べるだけでなく，小説として特異な点に着目し，解説すること。
リポート課題 2	『ロリータ』を読み，作品について自由に論じなさい（4,000 字以上，上限なし）。 **留意点**：①参考文献・先行研究を最低二つ以上あげ，自説を説得的なものにすること，②『ロリータ』からの引用（最低三行以上）を適切な方法でおこなうこと。